

「第3回 新興市場等の信頼性回復・活性化策に係る協議会」議事要旨

日 時 平成23年6月23日（金）午後3時～4時30分
場 所 日本証券業協会第1会議室
出席者 神田座長、第1部会大崎部会長、第2部会黒川部会長ほか各委員
金融庁総務企画局 森本局長、日本証券業協会 前会長

議事概要

1. 新興市場等の信頼性回復・活性化に向けた工程表（案）

「新興市場等の信頼性回復・活性化に向けた工程表（案）」について、事務局から、配付資料に基づき報告・説明、意見交換が行われ、その後、神田座長から本工程表案について諮ったところ、原案どおり了承された。

【意見交換】

- ・ 今回、新興市場等の信頼性回復・活性化に向けて、本協議会には多くの市場関係者が参加され、非常に横断的な組織が立ちあがった。工程表の前文にもあるように、工程表の各取組のフォローアップや、新たなニーズ・課題の把握、対応のためにも、引き続き、本協議会をうまく活用して、新興市場の活性化へ向けた検討を進めていけるとよい。
- ・ 工程表は、6月3日開催の本協議会での報告形式と、本日、事務局から報告・説明があった工程表は形式が異なっている。前回は3段の表であり、左側に金融庁「アクションプラン」の各検討項目、中央には議論の内容(主な意見・主な取組み)、右側に「今後の取組み（案）」が記載されていた。その後開催された第1部会・第2部会合同部会において、もう少しわかりやすくしようという議論があり、同アクションプランに沿って今後の具体的な取組みを取りまとめ、同取組み欄には各証券取引所等において既に実施されている独自の取組等の要約が記載されている。
- ・ 第1部会及び第2部会は、まさに研究会のような雰囲気、委員の方から大変有用な意見をいただき、忌憚のない意見交換が行われた。各検討項目・課題について、真剣に、積極的な意見が出され、議論ができたことは大変有意義であった。討議中には当然反対意見も幾つも出され、それらを残しておくべきではないかという意見があり、工程表の後に、「『新興市場等の信頼性回復・活性化策に係る協議会』第1

部会及び第2部会における議論」として付けた。「主な意見・主な取組」には、両論が併記されているのもあり、どちらに向いているのかわからないようなものもあるが、こういった意見が今後の検討の足がかりやヒントになるのではないかと考えている。また、議事録にも感想等を含む多くの意見があり、事務局で、今後の議論に活かすということであった。

- ・ 本協議会及び第1部・第2部会は、すばらしい関係者の皆様方が集まったものであり、今後もこういった取組み、会合が続けられればよい。
- ・ 今回は、金融庁「アクションプラン」において6月末までと区切られていたため短期間に精力的に議論を行ったが、もう少し時間をとって本質的な議論を行いたいとの思いもある。
- ・ 部会で議論になった、我が国における新興市場の位置づけは、日本の場合、ある程度成熟した国になっている点を考慮する必要があるのではないかと。中国は、あと10年、20年ぐらいは新興国として存続するであろうし、インドは、もっと存続するであろう。国の環境の違いから、中国やインドとは同じではない日本のような成熟した国で新興市場がどうあるべきか、これらの国との違いからどうあるべきかについて、金融庁、経済産業省、各取引所、市場関係者が参加し官民一体となったオールジャパン体制の本部会で、長期的に議論ができればよかった。
- ・ 2つ目は、アングロサクソン諸国との違いをもう少し念頭に置かなければならないのではないかとということである。日本において新興企業をどのようにしていくかの検討に当たっては、我が国の国民性自体を変える努力をすることも検討項目の1つとしてあると思う。いろいろな文化的背景はあるが、日本の起業家及び投資家のマインドは、アングロサクソン諸国とは異なっている。文化相対主義に立ち違いがあると認識しているものの、1つの方法としては、文化普遍主義に即して、我が国自体をアングロサクソン諸国のように変えていくことがある。例えば、企業を起こすことが「個人の人生の成功」と考えることや、企業を起こした後「その企業の売却などによる創業者利潤」を考えること、あるいは企業を起こしても「持分関係以外でその企業とかかわっていく」ことを考えるなど、我が国の「起業家マインド」を根本的に変えていくことである。同様に、「投資家マインド」にも言える。例えば、起業家で、キャピタルゲインや創業者利潤を得た人が、今度は後輩たちが新興企業を起こしたときに手伝う、あるいは資金を出すような行動もアングロサクソン諸国には見られるが、我が国の場合にはそのような精神が少し弱いのではないかと

と思う。

- ・ 文化的な背景の違いがあると思うが、そのような違いを乗り越えて、要するに普遍主義に立って、我が国自体の国民性のようなものを変えていくのか。あるいは、それが無理だということであれば、我が国独自の新興企業を育てるやり方をとるのか。さらに、個人投資家、機関投資家が新興市場に参入するときの面持ちや、我が国独自の資金供給のあり方を根本的に考え、新興市場をどうすればいいのかということを経期的に考えていきたいと思う。

2. 金融庁総務企画局 森本総務企画局長 挨拶

- ・ 金融庁では昨年12月末に、アクションプランで、新興市場の信頼性回復と活性化に向けた検討項目をお示しし、本部会・市場関係者の皆様に精力的に議論していただき、本日、工程表が取りまとめられ、大変ありがたく感謝申し上げたい。
- ・ 現在、政府の「新成長戦略」において、金融庁は金融戦略を担当しているが、やはり地域の成長企業にリスク・マネーをいかに供給するかということは極めて重要な課題である。従来から預金取扱金融機関に対して目きき能力を高めて発掘することを求め、期待しているところであるが、本来は市場の機能を生かして、成長企業が発掘され、さらにその資金的なバックアップを得て発展するという形がより強力な仕組みであると考え。中小企業については、我が国では、いろいろな中小企業の制度や中小企業への資金供給に独特の境地があり、その仕組みが成り立っているが、新興企業というもう少し上のレベルに関しては、従来から模索が続いているのではないかと考えている。
- ・ これまで、新しい制度を作っても、なかなかうまくいかなかったという歴史があったと思う。今回、多くの市場関係者によって日本の現実を踏まえた検討が行われたことで、日本の現実に合った新興市場のフレームワークができるということを大いに期待している。
- ・ 本日よりまとめられた工程表を見ると、非常に具体的な行動が幾つもプログラムされており、これからの取組みに大いに期待しており、金融庁としても積極的に関与、支援して参りたいと考えている。
- ・ 最後に、各取組の中には、企業やマーケットの方なども含めて、負担になる、必ずしもすぐに利益に結びつかない、今のやり方に合わない点などもあるかもしれないが、是非、中長期的観点で大局的な見地から、ご協力いただきたい。

3. 日本証券業協会 前会長 挨拶

- ・ 2月に協議会が設置され、東日本大震災を挟んで4カ月余りの短い期間に、神田座長、大崎部会長、黒川部会長、各委員の方には、いろいろな方向性・意見がある中で、これだけの内容の工程表を取りまとめていただき、大変有難く感謝申し上げます。
- ・ 工程表の各取組には、来年の3月目途というものもあり、これで一段落ということではなく、ここからがスタートであると感じた。日本証券業協会も、新興市場の活性化は日本経済の新たな成長の実現に向けた重要な課題であり、信頼性の向上も非常に大きな問題の1つだと考えている。今後日本の証券市場が発展するために必要不可欠な新興市場が信頼性を回復し、活性化するように、今後とも皆様方から意見をいただき、少しずつでも前進できるよう全力を挙げて取組んで参りたい。

4. 神田座長 挨拶

- ・ 2月以降非常に短い時間で、工程表の取りまとめができたのは、ひとえに委員の皆様方、大崎部会長、黒川部会長をはじめとする部会の委員の皆様方の熱意と尽力によるものであり、厚く感謝申し上げます。
- ・ 工程表の作成で終わりというわけではなく、出発点のようなところもあり、本協議会では、工程表に示されたそれぞれの取組について、今後必要なフォローアップを行うとともに、新興市場等の信頼性の回復と活性化という目標を実現するために、投資家をはじめ、市場関係者のニーズの把握に努め、必要であれば、さらに新たな課題というものを発掘してこたえていくという姿勢で臨みたい。皆様方にはこれで終わりということではないため、引き続き、御支援、御協力をお願いしたい。

5. 「工程表」の公表

工程表は、外部からの関心が高く、本会合の終了後、神田座長及び金融庁後藤委員、日本証券業協会増井委員から、工程表の内容について、記者会見を行い、公表することとした。

(配付資料)

新興市場等の信頼性回復・活性化に向けた工程表（案）

以 上